

探究・研究サポートのスタイル・フレームワーク

課題の性質と学習者の主体性に応じて、最適な関わり方を選ぶための実践シート



このシートの使い方

- 1 課題の性質を見立てる**
課題が「抽象的・概念的」か
「具体的・技術的」かを見立てる。
- 2 学習者の主体性を見取る**
学習者が「支援を求めている」か
「自走している」かを見取る。
- 3 当てはまる象限を選ぶ**
見立てた位置の象限にある
支援スタイルを選ぶ。
- 4 関わり方と次の一手を決める**
具体的な問いかけや支援方法を
決めて実践する。

課題の性質

抽象的・
概念的
(思考・価値の課題)



気づきを促す伴走型 (対話・支援)

問いの立て直しや思考の整理を、
対話を通して支援する。

具体例 問い返し／質問／視点の提示



挑戦を後押しする伴走型 (伴走・共創)

学習者のアイデアや仮説に伴走し、
視野の拡張や深掘りを支援する。

具体例 共同レビュー／視点拡張／外部接続



手を動かす支援型 (指導・サポート)

手順や方法を明確に示し、
安心して進められるよう支援する。

具体例 手順提示／デモ／練習支援



技術を鍛える伴走型 (指導・引き出す)

高度な技術や表現力を引き出し、
実行力を強化する。

具体例 フィードバック／改善指導／実践伴走



見取りの観点

- ☐ 何に困っているか
 発想／整理／
方法／実行／表現
- ☐ どの程度自走しているか

- ☐ 今必要なのは
 支える／
問い返す／
技術を示す／
任せる
- ☐ 次の一手は具体的か


低い
(支援を求めている)

学習者の主体性(自走度)

高い
(自走している)

(この画像はGoogle GeminiとChatGPTで作成しました)



状況は固定ではなく、学習の進行に応じて変化する。必要に応じて支援スタイルを切り替える。